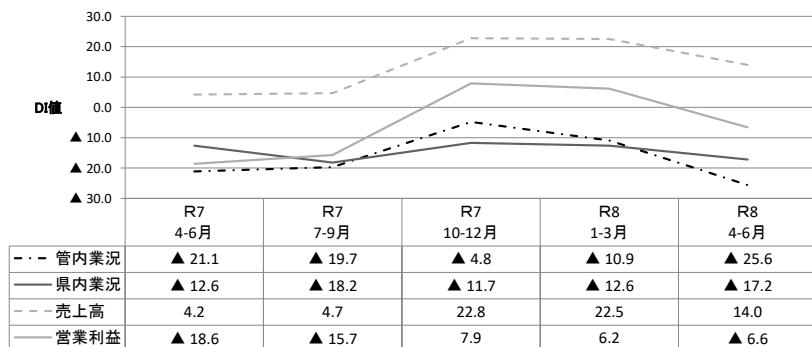


景気判断指数 DI 値の推移



『収益なき増収』が鮮明に、営業利益が2期ぶりにマイナス水準！

中東情勢の緊迫化とコスト高騰が業況改善の重石

※全業種のDI値は次の通りである。カッコ内は前回DI値(令和8年1月～3月)

□業況感DI値 ▲25.6(▲10.9) □売上高DI値 14.0(22.5) □営業利益DI値 ▲6.6(6.2)

今回の調査では、全体の営業利益DI値が▲6.6となり、前期(6.2)から大幅に下落して2期ぶりにマイナスへ転じ、収益環境が再び悪化したことが示された。売上高DI値は14.0とプラスを維持したものの、前期(22.5)からは低下し、増益を伴わない「収益なき増収」の傾向が強まっている。また、業況感DI値は▲25.6となり、前期(▲10.9)からマイナス幅が急拡大して大きく落ち込んだ。

経営上の問題点については、依然として「商品原材料仕入価格の上昇(19.7%)」が最多で、次いで「人材不足・採用難(14.3%)」、「人件費の増加(10.8%)」が深刻な課題となっている。記述回答では、中東情勢の緊迫化による燃料・電気代の高騰や、ビニール、樹脂、塗料といった石油由来の資材・原材料の調達難を懸念する声が目立った。業種別に見ると、これまで堅調だった製造業の収益環境が急激に暗転したことが浮き彫りとなった。特に製造業の営業利益DIは▲22.2と、前期(30.4)の大幅なプラスから一転して深刻な赤字基調に陥り、売上高DIも18.5(前期52.2)と増収の勢いが大きく鈍化した。業況感DIも▲29.6(前期▲4.4)とマイナス幅が急拡大し、地域経済を支える製造現場の苦境が鮮明となった。

業種別の業況感DI値は次の通り ※カッコ内は今後の見通し

全体▲25.6(▲30.3) 製造業▲29.6(▲22.2) 建設業▲17.6(▲23.5)

卸売・小売業▲38.7(▲38.7) 飲食・旅館業▲7.1(▲33.3) サービス業▲21.9(▲31.3)

* DI 値(景気判断指数) = (増加・好転等の回答割合) - (減少・悪化等の回答割合)

景況図の見方					
	① 好調・好転・増加	② やや好調・好転・増加	③ 横ばい	④ やや不振・悪化・減少	⑤ 不振・悪化・減少

項目 業種	売上高		資金繰り		従業員数		パートの採用		営業利益		業況		設備投資	
	前年同期比	今後3ヵ月	前年同期比	今後3ヵ月	前年同期比	今後3ヵ月	前年同期比	今後3ヵ月	前年同期比	今後3ヵ月	前年同期比	今後3ヵ月	今期実施	今後計画予定
全 体													29.1%	33.6%
製 造 業													34.6%	44.4%
建 設 業													43.8%	56.3%
小売・卸売業													23.3%	13.3%
飲食・旅館業													30.8%	35.7%
サービス業													21.9%	31.3%

① 増加50%以上、DI値20%以上

② DI値10%～20%

③ 不変50%以上、DI値±10%

④ DI値-10%～-20%

⑤ 減少50%以上、DI値-20%以上

*この調査は、三島地区の中小企業の景況を定期的に

把握し、各事業所の参考にさせていただくためのものです。

左表にある項目について、「前年同期との比較」及び

「今後3ヶ月の見通し」について調査し→で表しまし